



令和3年度 福島県立須賀川支援学校本校 学校経営・運営ビジョン最終評価

小=小学部児童 中=中学部生徒 高=高等部生徒 保=保護者 教=教員
A=そう思う B=少しそう思う ※ () 内は中間評価

校訓
健康・友愛・感謝

児童生徒像
・明るく 強く 生きる人
・自ら学び 考える人
・心豊かで 思いやりのある人

教育目標

- 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
- 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

学校像

- ・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
- ・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
- ・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

教員像

- ・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
- ・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
- ・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

< 今年度の努力目標 >

児童生徒のよりよい生き方の実現に向けて、一人一人の病状や障がいの特性に応じた指導において、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、評価の観点を明確にした授業づくりに努める。

<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ スタッフ会はもとより、必要に応じて児童のねらいや支援の方法について共有しながら支援に当たった。 □ 日々の授業で児童のニーズに応じて ICT を活用しながら、グループ研修において実践の共有や様々な活用法について学び合い、理解を深めた。 □ 評価の時期に担当者間で必要に応じて学習状況を共有した。今後は個別の指導計画等を活用し、学習評価の充実をめざす。 	<p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ スタッフ会や各関係機関とのケース会議等を適宜実施し、生徒理解、支援の方法、手立ての共有化に努めた。 □ グループ研修を通して、授業における ICT の効果的な活用や課題について理解を深めることができた。 □ 評価の観点について、生徒の実態に応じて今後検討しなければならない。 	<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 連絡経路を明確にし、即時的に全体に周知をすることで漏れのない情報共有に努めた。 □ より効率的・効果的な情報共有のために、イントラの活用方法を検討している。 □ 校内研修を通して教科における効果的な ICT の活用について進めている。 □ 評価の充実が生徒の実態に応じて、今後検討しなければならない。
---	---	---

健康

体

明るく 強く 生きる人

病気を理解し、健やかな体の育成をめざします

- 健康・安全生活の充実

小A (A)	中A (A)	高A (B)	保A	教A (A)
--------	--------	--------	----	--------
- 体育・健康に関する指導の充実

小A (A)	中A (B)	高A (B)	保A	教B (B)
--------	--------	--------	----	--------

友愛

知

自ら学び 考える人

教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします

- 学力の向上

小A (A)	中B (B)	高B (B)	保A	教A (A)
--------	--------	--------	----	--------
- 病弱教育の専門性の向上

児童生徒なし	保A	教B (B)		
--------	----	--------	--	--

感謝

徳

心豊かで 思いやりのある人

豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします

- キャリア教育の充実

小A (A)	中A (B)	高B (B)	保A	教A (A)
--------	--------	--------	----	--------
- 道徳教育や交流及び共同学習の充実

小A (A)	中A (B)	高B (B)	保A	教A (A)
--------	--------	--------	----	--------

学部目標・学級目標

各種計画 目標

【保健部】【学校保健委員会】

- 小・中学部では、「良い歯の表彰」と「歯科医による衛生講話」を行うとともに、クラスごとに養護教諭から歯磨きや手洗いの指導を受け、感染症の予防意識と技術を高めた。
- SDGs に関する内容や地場産物を使ったメニューをテーマに「食育コンクール」を実施し、食に関する意識を高めることができた。
- 健康観察カードを配布し、児童生徒の登校時の健康チェックを行うとともに、職員室や教室の定期的な換気と手指消毒の呼び掛けなど感染対策を徹底した。

【生徒指導部】

- 「交通安全教室」を実施し、興味・関心をもって交通ルールに関する意識を高めることができた。引き続き、年齢や実態に合わせた実施方法、内容等を検討する。
- 情報モラルに関する指導を計画的・継続的に行い、児童生徒の意識を高めることができた。危険性や安全な対応については具体的な指導を継続していく。

【教務部】

- 学習評価に関する必要な情報を発信することができた。今後は、一層の共有化が図れるよう、情報発信の内容や方法を工夫していく。
- 学習評価の一層の充実のために、教育課程委員会や各学部と連携して、学校全体や各学部の実現可能で具体的な取組について検討する。

【研修部】

- ICT に関する研修会、実践報告会を実施し、ICT 活用を取り入れた授業実践についての1年目の学校研究及びグループ研修の取り組みをまとめ、報告した。
- 特別支援教育センターの研究協力校として、支援学校における ICT 活用に関する研究授業を実施し、情報活用能力の育成を踏まえた数学科の指導の充実をめざす。

【情報教育部】

- AAC (拡大・代替コミュニケーション) やAT (補助的機器) に関する講習会を行うとともに、実際の授業でスイッチ教材や情報機器等を使用し、有効な活用方法について示すことができた。
- コンピュータなどの情報機器利用をサーバからクラウドへ大きな問題なく移行することができた。クラウドの使い方についてもその都度説明し、理解を深めることができた。

【小学部】

- 他学部の作業学習や実習見学等を通して、卒業後の学習や生活について、児童に具体的なイメージをもたせることができた。
- 学部行事や交流では、リモートを活用するなどして、互いに意識し合ったり合うことができた。他校との交流については、両校でニーズを確認し合いながら計画し、その充実をめざす。

【中学部】

- 校内実習、職場体験や保護者の進路相談等を通して、一人一人の生徒が自分の進路について考えることができた。
- 他校や高齢者施設との交流を通して、集団の中で互いにかかわり合いながら相互理解を図ることができた。

【高等部】

- 「職業と生活」や「自立活動」を通して、将来役立つ知識と今の自分に必要な考え方について、生徒の理解を促すことができた。
- ICT を活用し、他校との交流学習やリモート学習だけでなく、現実的なイメージをもてる授業作りに努めた。

【進路指導部】

- 産業現場等における実習を通して、生徒一人一人が進路を考える機会となり、他者評価を受けることで自己理解を深めることができた。
- 「福祉相談会」「職業相談会」及び校内の進路相談会を実施することで、得た情報を整理し進路を適切に考え選択していく力を養うことができた。

入学

転入出

卒業

小学部

中学部

高等部

センター的機能の充実 ～ 地域のニーズに応じた指導の充実をめざします ～

- 来校相談52件、出かける支援36件、研修支援7件を行った。(1月末現在)
- 新転入生を対象とし、出身校訪問を実施した。訪問を通して、新転入生の出身学校と本校が情報交換を行うことで、児童生徒の実態把握を行うとともに、切れ目のない支援につなげる機会となった。
- 地域支援アドバイザーを中心に各関係機関との連携が構築され、特に保育所、保育園、認定子ども園、幼稚園7か所の相談支援を行った。複数回訪問し相談支援を行った。
- 「特別支援教育研修会」は、新型コロナウイルス感染症を鑑み、57か所のオンライン接続開催となった。研修会終了後、オンライン「相談会」を6組実施した。